

本件連絡先

泉南市 産業観光課

担当:高山

TEL:072-483-9974

Mail: nourin@city.sennan.lg.jp

平成 28 年 2 月 17 日

泉南市報道提供資料

泉佐野市政記者クラブ 各位

泉南市秘書広報課長 古木 孝彦

(広報担当:藤原)

【地方創生】: 体験型砂栽培プラントの開園セレモニーの実施について

泉南市が実施する地方創生事業「産官学連携まち・海・里山活性化推進事業」のひとつ「砂栽培プラント展示事業」において、昨年 12 月より、東レ建設(株)と連携して整備を進めてきた【体験型砂栽培プラント】がついに完成しました。

泉南市が推進する【省力化・効率化農業】の普及と、砂栽培プラントを販売する東レ建設(株)の商品 PR という双方の目的を効率的かつ経済的に達成するため、機器費用を双方で折半し負担しています。本事業は、将来の農業施策を展開するうえでの新たな事業モデルとなります。

下記のとおり開園セレモニーを実施しますのでお知らせします。

記

○開催日時:平成28年2月24日(水)

- ・開 場:午前10時30分
- ・セレモニー:午前11時~正午

○場 所:泉南市信達市場 体験型砂栽培プラント(ビコハウス内で実施)
(泉南市給食センター横)

○参 加 者:市内農家等40名程度(市から案内連絡済み)

○次 第:1. 主催者あいさつ ・泉南市長 竹中勇人
・東レ建設株式会社 常務取締役 酒見憲一

【参考:来賓】

- ・泉南市農業委員会会長 中野 吉次
- ・大阪府環境農林水産部農政室長 南部和人
- ・大阪府泉州農と緑の総合事務所長 大西安史
- ・泉南市市議会議員 議長 堀口 武視
副議長 澁谷 昌子

2. 記念定植

3. その他

(1) ご当地グルメ開発品の試食

※地方創生事業「産官学連携まち・海・里山活性化推進事業」のひとつ
「泉南観光資源開発事業」により、大阪調理製菓専門学校が開発中

(2) 砂栽培砂栽培事例紹介 など

○事業概要：別紙「産官学連携まち・海・里山活性化推進事業」の概要を参照。

※産官学連携まち・海・里山活性化推進事業は以下の3つの事業で構成

1. 砂栽培プラント展示事業（主体：泉南市）

→東レ建設(株)と連携し、体験型砂栽培プラントを設置・運営。

2. 水産資源再生事業（主体：岡田浦漁業協同組合）

→近畿大学水産研究所と連携し、岡田浦漁業協同組合（泉南市）が絶滅危機に
瀕した伝統ある泉南アナゴの養殖を新たに展開。

3. 泉南観光資源開発事業（主体：泉南市観光協会）

→大阪調理製菓専門学校と連携し、泉南市の観光強化に繋がるご当地食材を活
用したご当地グルメを開発。

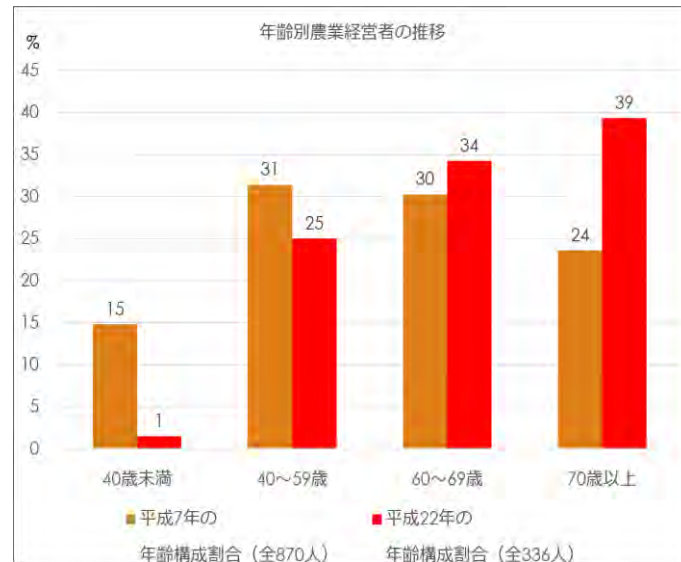
産官学連携まち・海・里山活性化推進事業の概要

- 産官学連携により、それぞれの知識、経験、ネットワーク及び財源をフル活用した事業展開を図り、より効果の高い地方創生事業を推進。
- 農業（里山）と水産業（海）の取組みを一体的に実施し、市街地を含む「まち」全域の地域活性化を図る。

泉南市の1次産業を取り巻く現状と課題

農業（里山）

- ◇農家の減少
 - ・平成 12 年：445 戸 → 平成 22 年：336 戸
- ◇担い手の減少（国版認定農業者）
 - ・平成 17 年：55 名 → 平成 27 年：43 名 + 4 団体
- ◇農地の減少
 - ・平成 12 年：282ha → 平成 22 年：223ha
- ◇農家の高齢化



- 【課題】
- ・農家の高齢化と農業就業人口の減少による農業生産体制の脆弱化
 - ・遊休農地の増加等、無秩序な農的土地利用の拡大

水産業（海）

- ◇漁獲量の減少（魚類）
 - ・平成 16 年：315 t → 平成 25 年：230 t
- ◇漁獲量の減少（アナゴ）
 - ・平成 16 年：140 t → 平成 25 年：25 t

- 【課題】
- ・泉南の伝統魚の絶滅危機
 - ・漁場の環境変化等による水産業の低迷に伴う「浜」のにぎわい喪失。

課題解決に向けた産官学連携による取組み

①砂栽培プラント展示事業【連携団体：東レ建設株式会社】事業費：4,500 千円（国庫 100%）

- 小規模な砂栽培プラントを設置し、市内（泉州地域）の農家・企業に砂栽培の見学・体験機会を付与。
- 砂栽培により、農作業の重労働性の低減が図られ、「省力化」「効率化」農業の展開が可能。

- 高齢化による離農を抑制。
- 企業の障害者雇用による農業参入。

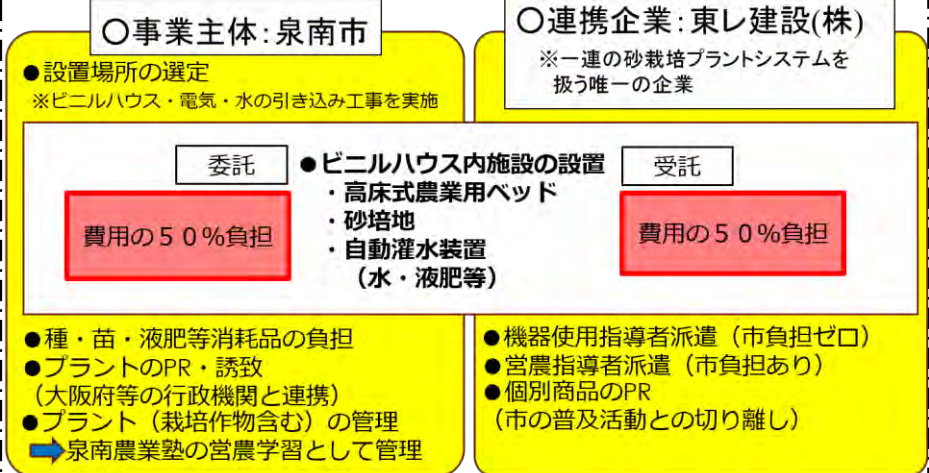
- 泉南市農業を次世代に引き継ぐ「担い手」の確保。
- 耕作放棄地の抑制等による秩序ある農的土地利用の展開 並びに将来世代に引き継ぐ農業生産基盤の維持。
- 将来にわたり、地場産作物の安定供給化など里山からの恵みを市街地（まち）が享受できる仕組みを維持・強化。



写真：プラントの様子（左）と栽培作物の例（右）
 ※東レ建設(株)提供
 ※設置場所は1列×18mの予定

うち、東レ建設(株)1,500 千円負担

事業推進体制

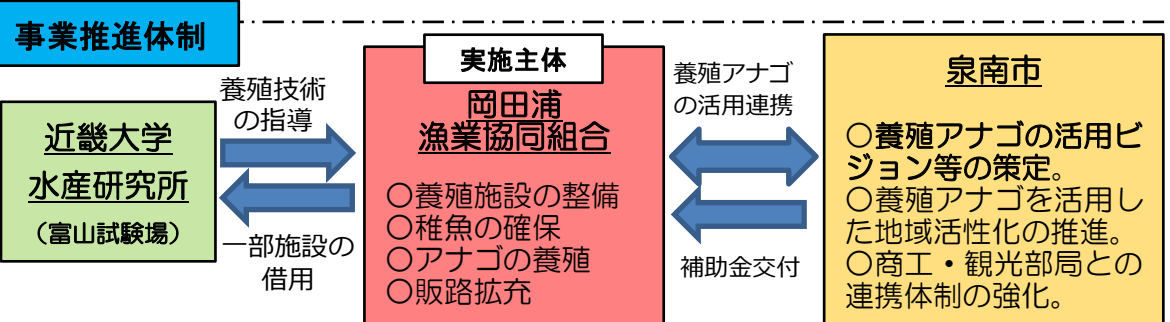


②水産資源再生事業 事業費 13,000 千円（国庫 100%）

【連携団体：岡田浦漁業協同組合、近畿大学水産研究所】

- 激減する泉南アナゴの保全・再生を図り水産業を活性化するため、アナゴの養殖に取り組む。

- 養殖アナゴを観光資源として活用し、海から市街地（まち）へ繋がる雇用創出・地域活性化を図る。



③泉南観光資源開発事業

事業費 2,500 千円（国庫 100%）

【連携団体：観光協会等、調理学校】

- 訪日外国人等の増加を踏まえ、観光強化の一環として、泉南市の「目玉」の開発・発掘を行う。

- 併せ実施する事業と連携し、農水産品を活かした「ご当地スイーツ」の開発と普及・活用を図る。

